

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成26年(2014)3月10日
No. 75
発行 高津啓洋

地球環境セミナー

3月2日地球環境セミナーを開いて、高津代表が講師を担当して、「ここまで進んだ地球環境問題」と題して、防災環境保全いやしの森を作るために、私達が立上ってやりましょうとして、以下の内容を簡潔に話しました。

まず、どんぐり拾いから初めて、ポット苗を作り、2年から3年かけて苗を育てます。川崎のこの辺りは、シラカシの森です。そして海岸地帯はタブの森を作ります。ホンモノの木は厳しい環境に耐えて長生きします。しかし、見た目

美しい木として、ソメイヨシノや庭木に植える木は、世代交代をしなかったり、厳しい環境に耐えることができません。土地本来の木でないと、災害時には人の命を守ってくれません。こんな違いがあるのです。

ドングリの種から森を作る。貴重な地球資源(DNA)を使い切る。シラカシの種は、10月から11月明治神宮に行けば、10分間で千個もの種を集めることができます。タブの種は9月に浜離宮に行けば集めることができますし。立派なタブの森を見ることができます。また、ドングリの拾えるころには、



皆で観察会をしながら、どんぐり拾いをしましょう。また、案内として、昨年と同じく、第二回大槌町植樹会と東北大震災慰霊の旅を計画しています。4月19日の予定です。人数に限りがありますがふるってご参加ください。



います。今日まで、植樹奉仕隊によって近隣の地域の村々(エスペランサ、ディアナ、カトルセマジョ、バイヤネグラ、オリンポ市、マリアアウキシラドーラなど)に200鉢のニームを7か所植えてきています。また、パラグアイ南部の諸都市では、各5000本を4か所植えてきました。(ミンガグアス市、フランコ市、イグアス市など)更にミンガグアス市には1万3千本を寄贈)

育苗所作り始まる

パラグアイでは、夏から秋に向かいますが、昼間はまだ40℃を越す日もあります。記念植樹園の整理と保守管理は継続されています。そうした中で、拡大するための育苗所作りも、まず、日除けや暑さ調節の寒冷紗を張ります。その

本年も、植樹奉仕地の派遣によってさらに多くの苗木が必要となつていきます。レダの育苗所の拡充と、シュウダデレステ育苗所、アスンシオン育苗所を拡充しているところです。皆様の支援が確実に実を結んでいます。

もとに、上記の写真のように、直播に種を植えて、双葉から4枚葉になって、ポット苗に移したり、直接ポット苗に種を植え付けます。広い育苗所に様々な種類の苗木が育てられて

